

特別授業『オーロラの大地から』を行いました

見出しの授業を以下のとおり行いました。

【目的】

- (1) アラスカの生態系について学習するとともに、自然の神秘や生命のすばらしさについて理解を深める。
- (2) 環境問題について、世界的な視点から考える契機とする。
- (3) 海外における活動について理解するとともに、自分が知らない世界への興味・関心を高める。
- (4) ライフワークとして一つの物事に情熱を注ぐことの面白さや大切さを理解する。
- (5) 自分らしさを追求することについて考えるとともに、自分の将来の目標や進路について考える契機とする。

【講師】 松本 紀生 氏

〈略歴等〉

1972年愛媛県松山市生まれ。写真家。立命館大学在学中に写真家になることを志す。同校中退後アラスカ大学へ編入、のち卒業。キャンプや撮影の技術は渡米後に独学で習得し、現在では1年の約半分をアラスカで過ごす。夏季は北極圏や無人島、冬季は氷河の上に自作するかまくらでひとりで生活をしながら、動物や風景、オーロラの撮影に専念する。2004年には北米大陸最高デナリ(6,190m)にも登頂。その活動はTBS「情熱大陸」、中学道徳、および高等学校の英語の教科書、米国「National Geographic Channel」等で紹介される。日本国内の雑誌、新聞、広告に加え、「Audubon」「National Geographic Adventure」など海外の媒体にも作品を発表。日本滞在中はスライドショー「アラスカ・フォトライブ」で全国の学校、企業、団体を講演してまわる。

メディア出演は、『情熱大陸』(TBS)、『林先生が驚く初耳学』(TBS)、『世界まる見え！テレビ特捜部』(日本テレビ)、など。

【日時】 令和2年11月19日(木) 9:30開始 11:20終了

【場所】 高志中学校第1体育館

【対象】 高志中学校全校生徒



【内容】

中学校・高校時代は将来の夢が見つからないまま過ごした松本さんは、大学在学中、手にした星野道夫の本『Alaska(アラスカ)』に魅了され、アラスカで写真を撮ることを自分の目標にしようと決意。以来、約25年にわたって、1年の半分以上をアラスカで過ごしてきました。アラスカのいろいろな地域に行って、夏はテント、冬はかまくらで過ごします。



特別授業では、ユーモアたっぷりの語りに乗せながら、ご自身が撮影した画像や動画をたくさん見せてくださいました。クマやオオカミが目の前までやってきた瞬間、ボートで海に出かけた時シャチに囲まれた時の様子、クジラがバブル・ネット・フィーディングと呼ばれる方法で魚の群れを食べる様子、川の両岸に群れる無数のカリブー、ハクトウワシがとらえた魚の重さに耐えられず海にはまりバラフライをするかのように陸まで泳ぐ様子など、いろいろな生き物の生の姿を見せてくださいました。「大自然の中で1~2か月いても、いつも同じ風景を目にするわけではない。毎日いろいろな場面に出くわす。それに気付くかどうかは自分次第。」と着眼力の大切さを教えていただきました。

また、アラスカで慎ましく生活をしている先住民の人々の様子を見せてくださったり、クマが川で捕った魚の食べ残りが森の栄養となってやがては海に帰るといふ自然のサイクルも教えてくださいました。地球温暖化の影響で、これまでの人々の暮らしや自然環境に大きな打撃が加えられていることを話されたときは、皆が考えさせられました。

特別授業は、あっという間の70分。最後は、オーロラのスライドショーで締めくくられました。赤い光のオーロラは非常に珍しく、約25年滞在している松本さんでも2回ほどしか見たことがないそうです。様々な色・形のオーロラの画像に感動させられるエンディングでした。

「やりたいことをやっている時はつらくない。エネルギーがわいてくる。1回きりの人生、だから、やりたいことを一生懸命やりたい。『やりたいことは何か?』とは難しい問いだけど、探し続けてほしい。夢がすぐに見つからなくても、『夢は何?』と問い続けながら目の前のやるべきことにしっかり取り組むのも素晴らしい生き方だと思う。」と、松本さんからメッセージが送られました。

最後に約15分の質問タイム。何人もの生徒がマイクに並び、時間が足りなくなっていました。授業後の体育館には、松本さんに質問をし続ける生徒の列。興味を持ってくれた生徒がとてたくさんいたようです。



【生徒の感想（一部抜粋）】

- アラスカの大地の美しさ、動物の賢さや優しさ、季節の移ろいの速さが初めて分かりました。
- 美しい風景が広がるアラスカに一度は行ってみたいくなりました。鯨や熊の躍動感あふれる狩りの様子や、色とりどりの神秘的なオーロラなど、アラスカの風景にとっても感動しました。
- 動物たちの興味深い行動も、自然の不思議な現象も、すべてが信じられないものばかりでした。
- コロナ自粛でストレスのたまる中、動物の様子や自然の雄大さに少し癒されました。
- 世界には未知のものがまだまだ広がっているのだなと感じました。
- この世界にはこんなにきれいな自然があるのに、その景色を多くの人がまだ見ていないのはとてももったいないと感じました。
- 写真にあった美しいアラスカを地球温暖化が壊している、動植物の生態系も影響を受けていると知って、自分ができることを考えて実行しようと思いました。
- 自然に対する考え方が、「守らなくてはならないもの」から「守りたいもの」に変わりました。
- 自分たちが普段何気なくエネルギーを使っていることが自分たちの知らない遠くの人たちの暮らしに影響しているということを、忘れないでいたいと思いました。
- アラスカの自然の美しさに驚くと同時に、それを壊そうとしている人間の行動の責任について考えさせられました。
- 一人で何も頼るものがない場所に行くのは絶対にしたくないと思っていたけれど、松本さんの生活の様子を見て、充実していいなあと思うようになりました。
- 松本さんがすごく明るく、弾むようにお話しなさっていたことから、本当に人生を楽しんでいるというのが伝わってきました。
- コロナ禍の中、これまでよりも自分の視野が狭くなっているような感覚がありましたが、今日の授業で見せていただいた写真のおかげで視野が広がったように感じました。
- 「身のまわりにあるものの面白さに気付くのは自分次第」「自分の好きなことを探していると『これだ！』と思える光るものが見えてくる」という言葉が心にきました。
- 「やりたいことは自分から見つけようとしないと見つからない」とおっしゃっていたのが心に残りました。
- 夢を追い続け、今もオーロラを撮り続けている松本さんは本当に輝いて見えて、私もあんなふうになりたいとあこがれの気持ちがわいてきました。
- 「探そうとしなければチャンスは通り過ぎてしまう」という言葉に感銘を受けました。今までも目の前のチャンスに自分が気付かなかったのかもしれないと思うと、もったいなく感じました。
- 自分は将来、海外に行きたいと思っています。今回の特別授業で、さらに背中を押された気持ちになりました。
- 「好きなことはつらくない」という言葉が心にグサッと刺さりました。勉強でも何でも、好きだという感情を抱けるようになりたいと思いました。